

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290201328		
法人名	社会福祉法人 江寿会		
事業所名	グループホーム サンホーム権常寺 グループA		
所在地	長崎県佐世保市権常寺町1087-3		
自己評価作成日	令和元年10月10日	評価結果市町村受理日	令和元年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和元年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

以前(在宅時)の暮らしの関係性が継続できるように、地域サロンへの参加や折り紙会を開催し、地域との繋がりが、開かれた施設作りに取り組んでいます。また、自分のできる機能を生かした活動や、外出等により生活に楽しみと自信が持てるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、今年度、自治会に加入が認められ、子供会との交流や地区住民による「折り紙会」の継続、清掃活動の参加など交流を深めている。また、小学校、中学校、高等学校や地域企業の職場へ出向き、講師として認知症への啓発活動「地域の福祉力を高める活動」に取り組み、開設3年目ながら信頼を強めている。更に契約書に運営推進会議の家族参加を明記したことで、毎回交代で参加があり、ホームの理解に繋がっている。利便性のある立地は、入居者のその日の希望に沿って個別の買い物や散歩が日常的に支援され、理念である入居者の自己意思、自己決定、自分らしい生活、当たり前の生活が当たり前に過ごせるように具現化が見える。法人と一体となった働きやすい職場環境作りは職員のゆとりを生み、チームワークの良さと笑顔での対応は入居者や家族の安心と信頼を得ている。地域に開かれた温もりのあるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔」「共感」「団結」の理念をもとに入居者様の自己意思や自己決定を大事に支援しています。	ホームは、法人理念とホーム理念を基に、入居者の当たり前の生活の延長の支援を目指し、法人全体で本人を支える体制を整え、希望する暮らしとなるよう柔軟に支援している。職員会議や勉強会では理念を再確認し、新人職員も共有できるよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と一緒に毎月折り紙会を開催しています。また、地域の大清掃の参加、運営推進会議での意見交換、緊急時の応援体制など行っています。	自治会に加入し回覧板を回したり、清掃活動の参加、毎月の折り紙会、子供会との交流や学生の職場体験、ボランティア受け入れ等、更に地域とのつきあいが広がっている。散歩中に住民と挨拶したり、近くのサロンや地区老人会に入居者と出向き町内の一員として、日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の開催、職業講話、地域へのサロンへの参加、学校の実習受け入れなどを行っています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催し、地域との情報交換、マニュアルの見直しなど行っています	年6回、規定の参加者で開催し、家族代表も毎回交代で参加している。議事録はホームの報告内容が詳細な分かりやすい記載であり、意見交換が活発に行われていることが確認できる。メインテーマに合わせて消防士や警察官、設計士など依頼し専門家の意見をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告書の提出、会議への参加、メールでの研修案内や注意事項など連携を図るようにしています。	日常の連絡事項や相談ごとは、主にファックスによる質問状でやり取りを行う他、介護保険の更新や申請は行政に出向き、担当者や顔馴染みの関係作りに努めている。「地域支え合い推進会議」に参画し、市から案内のある研修は、職員のスキルに合わせ参加するなど連携に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で委員会があり、毎月開催しています。また、全体研修会や外部研修参加など、身体拘束廃止に向けて取り組んでいます。	毎月の委員会の報告、定期的な内部研修や外部研修で、全職員が理解を深め、拘束のないケアに取り組んでいる。言葉による拘束には管理者が個別に注意することもある。日中は玄関の施錠も無く、入居者が外に出た時は後ろから見守りを行い抑圧感の無いケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で委員会があり、毎月開催しています。また、全体研修会や外部研修参加など、虐待防止に向けて取り組んでいます。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様があります。勉強会の参加にて理解を深めるようにしていますが、全体までの浸透は課題として残ります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に面談を行い、契約時に再度説明を行い理解等が得られるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や入居者様と密にコミュニケーションを図るとともに、担当職員を決め、なじみの関係を作り、意見が出やすいようにしています。	年1回家族会は運営推進会議と同時に行い、ホームの理解を深める機会となっており、家族との個別の外出支援の増加に繋がっている。入居者の担当職員が主となり、家族からも気軽に相談や要望を話してもらえるような関係づくりに配慮している。遠方の家族等とは管理者がメール等で連絡を取り合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人では毎週1回、グループホーム内では必要時に全体会議を行い、ユニット内では毎月会議を開催しています。	ユニット会議や申し送りなどで、職員が活発な意見を出し合い、入居者の外出支援に向けてシフトの変更を職員間で行い、個別支援に繋がった事例もある。職員の自己評価や年1回、代表との個人面談もあり、福利厚生や研修費用負担など職員の職場環境に配慮しており、チームワーク構築に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の補充や有休休暇、希望休など随時対応しています。また、研修会を業務時間内に変更するなど、職員が働きやすい職場環境を目指しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内の掲示や資格取得の為の研修会など業務として参加できるようにしています。また、参加費なども施設で負担しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の勉強会や、老協協、グループホーム連絡協議会、介護支援専門員協議会など、情報交換や連携が図れるようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談にて、情報収集を行い、職員への周知徹底を図っています。また、入所後の不安に対する対処法など常に家族様や職員間で検討し、不安の除去に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面談にて、情報収集を行い、希望や要望が反映できるようにしています。また、担当職員を決め、関係が図りやすいようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前、入所後も定期的なアセスメントを行い、必要な支援の把握に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯、食事作り、買い物など入居者様と一緒に取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望や要望をご家族様に伝え、入居者様とご家族様の懸け橋になれるように支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から参加されていたサロンへの参加や、自宅への仏壇参り、自宅近辺への散歩など支援しています。	地区のサロンや老人会、町内新年会の参加など以前からの継続があり、自宅近辺の散歩や帰宅など職員が支援している。家族の協力で、法事や外食、馴染みの温泉など入居者の行きたい場所や会いたい人に会える個別支援に力を入れている。将棋が好きな入居者と管理者が対戦し毎日の暮らしの張り合いとなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居様の関係性を考慮した席配置や、外出時のメンバーなど、日頃よりの関わり等円滑に図れるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を退所されても、生活の継続が確保できるように、関係機関やご家族様と連携を図っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、入居者様の希望や意向を把握し、ご家族様や職員間で協議しながら支援しています。	入居者の担当職員が、日常の小さな要望に耳を傾け、好きな食べ物、過ごし方、家族との外出などゆっくりした時間に聞き取り、新しい情報は申し送りノートに記録し情報共有している。思いを言えない入居者は家族に相談したり表情や仕草からも把握し検討している。特に今年度は職員や家族との外出の個別支援が増加している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様、関係のあられた機関などから情報収集を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを通して有する能力、心身の状態把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意向を踏まえ、会議を開催し、計画書を作成しています。	利用開始時の暫定プランは最長3ヶ月で見直している。介護計画実施録を基に、毎月のモニタリング、3ヶ月毎のケアカンファレンスを経て、入居者担当の職員が本人・家族の要望や医師の指示を取り入れた原案を全職員で検討し、家族の同意を得て介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、ケアプランの実施録、申し送りノートを活用し、情報を共有しながら介護計画の見直しなど行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様、関係機関と連携し、ニーズに対応できるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	折り紙会を開催したり、サロンへの参加、外出支援など生活に楽しみが持てるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、歯科は往診を行い、他の専門機関は、主治医、ご家族様と連携しながら受診を行っています。	かかりつけ医は家族の意向に沿って決めているが、往診医へ移行の希望が多く、現在は全入居者が往診医である。内科往診は2週毎、歯科往診はほぼ毎日である。往診以外の受診は職員が同行し、家族へ結果を報告している。また、ケース記録へ記載し職員で共有している。緊急時の対応の訓練を毎年実施し、職員は理解している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護職員を配置し、緊急時の対応、気づきや情報を把握し、適切な受診や看護が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護サマリーを作成し、関係機関と連携を図っています。また、必要に応じて主治医に上申し適切な処置が受けられようように連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にターミナルや重度化について説明を行い、入居者様の状態に応じて、ご家族様と個別の面談など行っています。	事業所は、看取り支援は行わないことを明文化し、契約時に家族へ説明し、状態悪化した場合の意思確認書と看取りに関する同意書を得ている。状況に沿って他施設への紹介する対応策があるが、家族の強い希望と事業所で出来る範囲の支援に了承を得られれば看取り支援を検討するとし、職員に対して看取りの研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会の参加や委員会活動を通して、技術の取得に励んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的な訓練の実施、委員会活動、関係機関との連携が図れるように支援しています。また、防災の日を設け、日頃からの防災に関する点検、予防に努めています。	避難訓練は消防署立会いを含め年6回、内、夜間想定訓練を2回実施している。毎日の自主点検に加え、毎月防災の日を設定し意識付けを行っている。自動火災通報の連絡先に地域住民も入っており、消防団との連携もあり、備蓄も整備している。ただし、非常持ち出し品や自然災害のマニュアルの整備、避難訓練の実施はこれからである。	事業所はハザードマップの土砂災害区域にあり、事業所に合ったマニュアルの早急な整備と避難訓練の実施、および非常持ち出し品の整備が望まれる。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴は同性介助を基本とし、日常の言葉かけに配慮を行っています、また、個人情報に関して、入居様全員に説明と同意を得るようにしています。	職員は入居者の声掛けは苗字にさん付けであり、排泄支援や入浴介助時は羞恥心に配慮し、人格を尊重した支援を心掛けている。個人情報の取り扱いは、写真掲載を含め契約時に家族へ説明し同意の署名を得ている。また、職員は守秘義務の誓約書を提出し理解している。書類の保管場所も適切である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居様の意向や希望を把握し、それらの実現に向行けて活動を支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の判断ではなく、個々の必要な支援を把握し、その時に応じた支援が受けられるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択、季節に応じた衣類の交換など、ご家族様と協力しながら支援しています。また、各居室に洗面台を設置し、お化粧、髭剃りなど自由にできるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳、下膳、食器洗いなどできる範囲で手伝っていただいています。	献立は委託業者の栄養士が立て、調理専任の職員が咀嚼や嚥下の状態に合わせ調理している。入居者の好物は介護計画に入れ個別に対応し、入居者は下膳など手伝っている。ドライブ先でのソフトクリームや外食、弁当、出前など入居者の楽しみのになっている。ケーキを入居者と一緒に手作りするなど楽しむ支援に努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人様に合わせた食事形態、食器などを使用しています。また、毎食の食事量など記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの実施、義歯の清掃の実施、専門医の往診など受けられるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ライフチャートを活用し、入居者様の排泄パターンを把握するとともに、必要な支援が受けられるようにしています。また、物品の補充、購入など行っています。	各居室にトイレを設置しており、全入居者が居室トイレでの座位排泄である。職員はライフチャートを基に入居者の排泄リズムを把握・共有し、声掛け誘導支援を行っている。また、職員は排泄の自立支援を理解し、快適な排泄へ向けて各入居者の排泄状況に合った支援の検討を行い、改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事療法や水分量の確保、腹部のマッサージなど行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の意思を尊重しながら、同性介助、時間帯、日にちなど支援しています。また、湯の温度、湯あたり等に注意しながら支援しています。	入浴は毎日準備し週2日を基本としているが、入居者の気分や体調により、時間や日を変えるなど柔軟に対応している。車椅子の入居者は2人介助で支援している。また、ホームは同性介助を基本とし、季節のゆず湯など楽しい入浴時間になるように努めている。ただし、脱衣室の洗剤類が床に置かれている。	入居者の誤飲などのリスク回避のためにも、収納の工夫が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やすとともに、就寝時の温度設定にも配慮を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が内服薬の変更など把握できるように、申し送りノートを活用し、情報の共有に努めています。また、誤薬に注意し、2名確認、配薬時にはご本人様にも確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた支援内容、嗜好に合わせた食事、日頃からの役割作り、外出などを支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への買い物や散歩などを頻回に実施しています。また、ドライブなどの遠出も週に1～2回は実施できるようにしています。個別の外出は、ご家族様と協力しながら行っています。	毎週ドライブに出掛けている。季節の花見や水族館、買い物外出等、各ユニット毎に日常的に車椅子の利用者も一緒に出掛けている。また、美容院や温泉、外食、外泊など家族支援の外出も多い。その日の気分の外出や散歩、外気浴など積極的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金を管理し、必要な物がすぐに購入できるような体制をとっています。また、出納帳の記入、ご家族様への補充の依頼、報告を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様の希望に合わせて、電話を取り次いでいます。また、自らの電話は、ご家族様と検討しながら行っています。遠方の方への連絡はライン等を活用しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃専門のパートを配置し、清掃の徹底を図っています。温度や湿度への対応や、快適に過ごせるように努めています。	リビングの窓はカーテンで光を調節し、オープンキッチンで調理する様子が見え、下ごしらえを手伝う入居者もある。入居者が読書やテレビを見ながら談笑したりと自由に寛ぎ、和やかで落ち着いた雰囲気である。観葉植物や折り紙の作品が飾られ、掃除や換気も行き届き清潔で、居心地のよい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	関係性を考慮した席配置を行い、随時見直し等を行っています。また、どこで過ごされるか、ご本人様の意思を尊重しながら支援を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具など慣れ親しんだ物を依頼しています。また、居室内の家具配置や備品などご本人様やご家族様の意向に合わせています。	各居室にはベッドとトイレ、洗面台を設置している。湿温度計付きの時計やテレビ、テーブル、椅子など家具や使い慣れた生活用品を持ち込み、配置も様々で、遺影や孫たちの写真、手作り作品を飾り、落ち着いた居室を作っている。出来る範囲で入居者と一緒に掃除しており、清潔を保持した寛げる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様のできる事に目を向け、活動内容を選定しています。また、それらを通して、自信と喜び、存在意義になるように支援しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	4290201328		
法人名	社会福祉法人 江寿会		
事業所名	グループホーム サンホーム権常寺 グループB		
所在地	長崎県佐世保市権常寺町1087-3		
自己評価作成日	令和元年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和元年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

以前の暮らしの関係性の継続として、なじみのお店(美容室など)への外出、ご家族様との散歩や外出など、ご家族様の協力のもと、可能な限り支援しています。また、毎月の折り紙会や運営推進会議を通して開かれた施設を目指し取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔」「共感」「団結」の理念をもとに入居者様の自己意思や自己決定を大事に支援しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と一緒に毎月折り紙会を開催しています。また、地域の大清掃の参加、運営推進会議での意見交換、緊急時の応援体制など行っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の開催、職業講話、地域へのサロンへの参加、学校の実習受け入れなどを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回運営推進会議を開催し、地域との情報交換、マニュアルの見直しなど行っています		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告書の提出、会議への参加、メールでの研修案内や注意事項など連携を図るようにしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人で委員会があり、毎月開催しています。また、全体研修会や外部研修参加など、身体拘束廃止に向けて取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で委員会があり、毎月開催しています。また、全体研修会や外部研修参加など、虐待防止に向けて取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様があります。勉強会の参加にて理解を深めるようにしていますが、全体までの浸透は課題として残ります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に面談を行い、契約時に再度説明を行い理解等が得られるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や入居者様と密にコミュニケーションを図るとともに、担当職員を決め、なじみの関係を作り、意見が出やすいようにしています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人では毎週1回、グループホーム内では必要時に全体会議を行い、ユニット内では毎月会議を開催しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の補充や有休休暇、希望休など随時対応しています。また、研修会を業務時間内に変更するなど、職員が働きやすい職場環境を目指しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内の掲示や資格取得の為の研修会など業務として参加できるようにしています。また、参加費なども施設で負担しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の勉強会や、老施協、グループホーム連絡協議会、介護支援専門員協議会など、情報交換や連携が図れるようにしています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面談にて、情報収集を行い、職員への周知徹底を図っています。また、入所後の不安に対する対処法など常に家族様や職員間で検討し、不安の除去に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前面談にて、情報収集を行い、希望や要望が反映できるようにしています。また、担当職員を決め、関係が図りやすいようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前、入所後も定期的なアセスメントを行い、必要な支援の把握に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯、食事作り、買い物など入居者様と一緒に取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の希望や要望をご家族様に伝え、入居者様とご家族様の懸け橋になれるように支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前から参加されていたサロンへの参加や、自宅への仏壇参り、自宅近辺への散歩など支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居様の関係性を考慮した席配置や、外出時のメンバーなど、日頃よりの関わり等円滑に図れるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を退所されても、生活の継続が確保できるように、関係機関やご家族様と連携を図っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、入居者様の希望や意向を把握し、ご家族様や職員間で協議しながら支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様、関係のあられた機関などから情報収集を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを通して有する能力、心身の状態把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様、ご家族様の意向を踏まえ、会議を開催し、計画書を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、ケアプランの実施録、申し送りノートを活用し、情報を共有しながら介護計画の見直しなど行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様、関係機関と連携し、ニーズに対応できるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	折り紙会を開催したり、サロンへの参加、外出支援など生活に楽しみが持てるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、歯科は往診を行い、他の専門機関は、主治医、ご家族様と連携しながら受診を行っています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護職員を配置し、緊急時の対応、気づきや情報を把握し、適切な受診や看護が受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護サマリーを作成し、関係機関と連携を図っています。また、必要に応じて主治医に上申し適切な処置が受けられように連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にターミナルや重度化について説明を行い、入居者様の状態に応じて、ご家族様と個別の面談など行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会の参加や委員会活動を通して、技術の取得に励んでいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的な訓練の実施、委員会活動、関係機関との連携が図れるように支援しています。 また、防災の日を設け、日頃からの防災に関する点検、予防に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴は同性介助を基本とし、日常の言葉かけに配慮を行っています、また、個人情報に関して、入居様全員に説明と同意を得るようにしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居様の意向や希望を把握し、それらの実現に向けて活動を支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の判断ではなく、個々の必要な支援を把握し、その時に応じた支援が受けられるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の選択、季節に応じた衣類の交換など、ご家族様と協力しながら支援しています。また、各居室に洗面台を設置し、お化粧、髭剃りなど自由にできるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、配膳、下膳、食器洗いなどできる範囲で手伝っていただいています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人様に合わせた食事形態、食器などを使用しています。また、毎食の食事量など記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの実施、義歯の清掃の実施、専門医の往診など受けられるように支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ライフチャートを活用し、入居者様の排泄パターンを把握するとともに、必要な支援が受けられるようにしています。また、物品の補充、購入など行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事療法や水分量の確保、腹部のマッサージなど行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の意思を尊重しながら、同性介助、時間帯、日にちなど支援しています。また、湯の温度、湯あたり等に注意しながら支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やすとともに、就寝時の温度設定にも配慮を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が内服薬の変更など把握できるように、申し送りノートを活用し、情報の共有に努めています。また、誤薬に注意し、2名確認、配薬時にはご本人様にも確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じた支援内容、嗜好に合わせた食事、日頃からの役割作り、外出などを支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	特定の入居者様はご家族様と頻回に散歩や外出など行っていますが、他の方への支援が課題として残ります。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金を管理し、必要な物がすぐに購入できるような体制をとっています。また、出納帳の記入、ご家族様への補充の依頼、報告を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様の希望に合わせて、電話を取り次いでいます。また、自らの電話は、ご家族様と検討しながら行っています。遠方の方への連絡はライン等を活用しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃専門のパートを配置し、清掃の徹底を図っています。温度や湿度への対応や、快適に過ごせるように努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	関係性を考慮した席配置を行い、随時見直し等を行っています。また、どこで過ごされるか、ご本人様の意思を尊重しながら支援を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具など慣れ親しんだ物を依頼しています。また、居室内の家具配置や備品などご本人様やご家族様の意向に合わせています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様のできる事に目を向け、活動内容を選定しています。また、それらを通して、自信と喜び、存在意義になるように支援しています。		